

本論文は

世界経済評論 2019年5/6月号

(2019年5月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料
OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

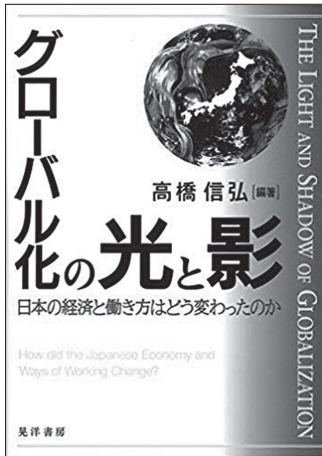
お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

グローバル化の光と影 日本の経済と働き方はどう変わったのか

聖心女子大学教授 古川 純子



[編著者] 高橋信弘 (たかはし のぶひろ)

大阪市立大学商学部教授

[発行] 晃洋書房, 2018年11月

[判型] A5判, 264ページ

[定価] 2600円+税

グローバリゼーションは、経済・政治・社会・文化・環境など多様な要素が有機的に絡み合う多次元的现象であり、完全に理解するには神の目が必要である。とはいえ、価格の差、利子率などの差を裁定する取引から利潤を得るために市場の拡大が合理的だという考えが、グローバリゼーションを推進してきた力のひとつであることは間違いない。この資本の論理を賃金格差の裁定としてヒトに適用するとき、その影響を受け止めるのは生身の人間でありその生活である。本書は、特にこのヒトの側面に強い光を当てた、類書に例をみないグローバリズム論である。

BPO やソフトウェアの海外アウトソーシングによる日本の技術水準への影響 (第2章)、

外国人介護人材の問題 (第5章)、外国人ホワイトカラー雇用に関する経営的課題 (第6章)、ベトナムへの設計オフショアリングに関する聞き取り (第7章) など、調査に基づく具体的な記述は臨場感があって面白い。なかでも、2019年4月に新しい外国人労働者受け入れ制度を拙速に始める日本にとって、かつて日本の研修・技能実習制度を導入して失敗した韓国が独自に開始した雇用許可制度のしくみやその教訓 (第9章) と、Brexit や多数のテロ事件を引き起こす原因となった欧州 (ドイツ・フランス・イギリス) の移民政策の経緯 (第10章) は必読である。移民政策の対象は人間であり、しくみを元に戻そうにも世代を超えて波及効果は続き、不可逆であることを教えてくれる。周到的な受け入れ準備が必要である。欧米が閉じ始める時、日本は開く。日本の制度は適切か、情報の読み間違いはないか、日本は金解禁の歴史を繰り返すのか、とAIが日本人の仕事の50%を代替し始める時代に思う。

本書は、上記の内容に加えて、日本のバブル発生にアメリカが与えた影響、アジア通貨危機などの金融面、グローバリゼーションが日本の農業に与えた影響やEUの東方拡大と農業の課題、WTO や貿易摩擦などの貿易面についても論じており、ヒト以外の要素への配慮もバランスよい。グローバリゼーションの成り立ちを1冊で理解したい忙しい読者にとっても有用だろう。経済の基本的しくみを説明する分かりやすい記述が随所に織り込まれており、経済を専門にしない人にも、大学で学ぶ学生の教科書としても役立つ。

日本語のみで暮らしていける日本人は本当に幸福な民なのである。そのかわり外国人や異文化との接触では世界の後塵を拝する日本は、ヒトのグローバリゼーション後進国となる。学ばなくてはならない。

(ふるかわ じゅんこ)